

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270500329
法人名	有限会社 幸久の家
事業所名	グループホーム陽だまりの森 湯と里館
所在地	島根県大田市久利町久利691
自己評価作成日	令和6年4月16日
評価結果市町村受理日	令和6年7月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和6年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域周辺には小学校や保育園、長久会もあり、合同で運動会や花壇作りなどの行事を行っている。また地域のお祭りなどの行事への参加をし、地域交流を図っている。外部、内部研修、避難訓練などの参加、実施をし、質の向上を図っている。ご家族とは来所持や電話時に利用者様の状況を報告したり、行事への参加を呼び掛けているが、今年度はコロナウイルスの関係でほとんどの行事に参加できなかった。食事は昼食についてはメニューを一緒に考えたり調理への参加もしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の自然豊かな場所に位置し、地元の施設として周辺の高齢者、小学生等多くの人達との関わりを続けていたが、コロナ禍で中断。昨春秋に利用者からコロナ感染者が出たこともあり、今もなかなか緩和できない状況にある。食事面で業務改善をし、ケアに関わる時間を確保すると共に職員の負担軽減に繋げたり、外国人の雇用も始めるなど新しい取り組みもある。平均介護度が軽くなってきている中、ボランティアや外部との関わりが持てない現状でも、体を動かすことや手作業、行事等も行われている。コロナ禍で業務が増す中職員確保には苦慮している様子がうかがえた。かかりつけ医の往診に訪問看護の利用で以前より看取りを行っており、今後も続ける意向を持っている。認知症の施設としてより充実した個別対応ができるよう、幅広い研修を重ねることで職員全体のレベルアップに取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたらしく、自分らしく」という法人理念をもとに実践努力はしているが、話し合う時間も少ししか作れず、十分でないことも感じている。	法人の理念を元に各ユニットで年間目標を作成。毎月の目標に繋げるよう目につく場所に掲示している。外国人を雇用している為、カタカナで書いたり、ミーティングでは話し合いの機会を設けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入し、草刈やごみ当番には参加している。町内の市議員の方には運営推進委員になっていただいている。通常、地域の老人会、小学校、保育園との交流もあるが、ここ数年コロナウイルスの関係で交流はほとんどできなかった。	以前は老人クラブや地元小学校との交流が盛んだったが、コロナ禍の為中断状況が続いている。地域の活動は徐々に戻りつつあるが、受け入れには至っていない。小学校に向き、卒業生に記念品を手渡していたが中止している。ただ記念品を送ることは続けている。	少しずつ地域との関わりが持てるよう検討いただきたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的なことは実施できていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月分に一度運営推進会議を実施しており、活動状況の報告をしている。そこでいただいた意見はユニットの会議で検討し、結果を報告している。	家族代表、地域からは市議員、介護保険課、包括、他事業所からの参加を得て定期に開催。利用者状況に施設の活動状況を伝え、意見交換に繋げている。参加者からの質問事項を受けたり、コロナ感染症対応に関する内容が多くなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状としては、運営推進会議での意見交換にとどまっている。また、月に一度介護相談員が来所し、情報交換、利用者からの意見を聞き出してもらっている。相談員は運営推進委員でもある。	担当課からは毎回運営推進会議に参加があり、専門的立場から助言を得ている。介護相談員事業により毎月1回相談員の訪問を受けられている。グループホーム部会に参加するなど、行政との関わりはあり、良い関係性が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的に開催し、その内容を周知し、各ユニットで勉強会も開催している。現状、24時間施錠しているが、あくまで防犯目的であり、利用者が出たい時には開錠している。	離設者を搜索した経験や現在も精神的に不安定で落ち着かない方や広範囲に出歩く方があり、施錠をしている。虐待を含めオンライン研修に参加したり、身体拘束委員会では勉強会を予定している。外に出られる方には職員が付き添うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度はコロナウイルスの関係もあり、外部研修も少なく、参加もほとんどできなかった。虐待に関することがあれば基本的にユニットのミーティングで検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な成年後見制度等の学ぶ機会や関係者と話す機会などはほとんどない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限りの説明は行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、ほとんど活用はされていない。来所時や電話、運営推進会議などで必要な時に相談や意見を求めている。利用者については担当者会議で検討しているが、十分かどうかは判断しかねる。	法人の広報を数か月に1回、グループホームからの便りは毎月送っている。コロナ禍になり面会が限られる為、家族には毎月様子を知らせる電話をかけるなど意見を得る機会を持っている。介護相談員事業を受け入れ、月1回利用者の意見を聞く機会がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	あらためて聞く事は設けていないが、会場で意見が挙がることもあり、内容に応じて上部で検討している。	毎年度個人目標を作成。自己評価表を記入しそれに合わせて面談を予定している。管理者は必要性を感じた時には、声掛けして話をするようにしている。日々のケアに関してはミーティングなどの際、積極的に意見が出され話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者と顔を会わす機会はほとんどない。職員の勤務状況等は適時上部に報告し、契約更新時などの状況に合わせて検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー、本人から状況を聞き取り、把握に努めている。それに伴い本人に必要な研修などの参加を勧めているが、今年度は外部研修にはほとんど参加していない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のGH部会に加入している。その部会の研修に参加し、交流する機会を作っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には事前に見学を勧めており、可能な限りの情報を聞き取っており、また、ご家族や施設職員からも状況を聞き、本人の思い等の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時にはご家族の意見、要望を確認している。誕生日の行事の際には、家族の意向を確認したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所決定の前に、可能な方には見学をしていただいたうえで入居の判断をしてもらっている。入居の意向であればご家族、本人の意向を確認し、入居されてからのケアの検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理等できることはできる限り一緒に行ったり、困ったことなどあれば傾聴したりと、共生の意識付けを目指しているが、今年度は食事と一緒に出来なかったりと制限がかかる事もあり、暮らしを共にする関係性には遠いと思われる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの関係でパーテーション使用や短時間での面会しかできず、十分な面会がほとんどできない状況であった。職員も時間をかけゆっくりと家族と話をすることは少なかった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	短時間で面会ではできたが、外出する機会はほとんどなかった。	外部との交流も隣のデイへの行き来も今はできていない。コロナ禍が5類になり面会は増えてきたが、出かける機会は少ないのが現状。家族対応で受診する方は行き帰りがいい時間になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要時には介入し、利用者同士の会話がスムーズにいくようにしたり、一緒に作業できるようにしているが、関わりがほとんどできない方もおられるのが実際である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、具体的に相談、支援はできていないが、何か相談などあれば対応していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志の疎通が図れる方には聞き取りをしたり、日々の生活の中での発言や行動、生活歴から、意向をくみ取り、プランに反映させている。	入所の際にできるだけ家族関係者からこれまでの生活の様子や好きだったこと、得意なこと、習慣などを聞きプランに繋げるようにしている。形を変えても続けられるものを見つけている。入所から日が浅く落ち着かない方があり対応を検討中。	個々に合わせた個別援助計画が作成できるよう検討いただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から聞き取りをして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	周知としては個人記録を利用しているが、不適切な対応により、本来の有する能力や心身状態がわかりにくい現状もある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り、ご家族、本人を交えての話し合いを目指しているが、難しい現状をあった。主治医には受診、往診時に意見を頂いている。	モニタリングを6か月に1回まとめている。コロナ禍で本人、家族を交えての担当者会議はできていないが、短時間の面会時や電話で様子を聞きプランに繋げるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録に残している。記録が十分でなかったり、周知できてない状況もある。基本的には半年に1回は計画の見直しを行っている。状態に変化があった時には都度実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して、出来る限りの検討、対応を行っている。また、入院等で空きがある場合には短期利用も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度、地域交流は実施できなかった。地域に対し利用者が活躍できるような取り組みも出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、ホーム側からは指定はせず、本人、ご家族の意向で決定している。医療機関によっては往診もあり、特変時には往診対応もしてもらっている。特変時にはご家族とも相談をして主治医に報告している。	今までのかかりつけ医を継続することとしており、多くの方は定期的な往診を受けている。家族対応で受診す方もあるが、指示が得られるようになっている。週2回訪問看護の利用もあり、看取り対応に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームと契約している訪問看護の看護師が定期的に訪問し健康管理をしてもらっている。特変時には24時間相談、訪問も可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりとして何かを行っているということには現状ない。利用者が入院されれば、情報提供を行い、入院中も状態確認、相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期での本人、ご家族の意向確認はできていないが、可能性が出た時点では確認し、ホームの意向なども伝えている。主治医、ご家族、訪問看護の協力を得て、看取った経験もある。	重度化に向けては家族等の意向で特老に移る方もあるが、ここでの看取りを希望する方もあり、現在も1名看取り対応を行っている。主治医と訪看との連携で今後も、段階に応じて話し合いの機会を持ちながら、看取りに取り組む意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の訓練を実施し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	十分な訓練の実施が出来なかった。自動通報装置により地域の消防団の方にも連絡がいくようになっている。	以前はデイと合同の訓練を行っていたが、コロナ禍のため単独で実施している。主に火災中心の避難訓練を、昼間は利用者を交えて、夜は夜間職員を中心に行っている。地域の消防団員の協力も得られるようになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切でない声掛け、言葉遣いがあるのは否定できない。その際はミーティングで議題として挙げ、検討するようにしている。	外国人を雇用しており、聞くことはできても状況に合わせた声かけは不十分と感じており、場面に合わせて他の職員がフォローに入るようにしている。感情が出る場面もあるため、研修を重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合に合わそうとしている現状も見られる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わそうとしている現状も見られる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水をつける方はおられる。整容などできない方は介助で行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の際、利用者の参加が少ないのが現状である。配膳や食器を洗ったり調理される方はおられる。職員が利用者と一緒に食事することはコロナウイルスの関係で控えている。	以前は食材配達を利用して3食作っていたが、現在は昼食のみ作り、朝夜は湯煎して提供する副食に変更している。あまり多くはないが、食材切りや盛り付けなどできる作業と一緒にしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態などは個別に必要なに応じて対応している。また、本人の嗜好品などを取り入れ水分など確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の気持ちにも配慮しながらではあり、毎食後行えてない方もおられるが、夕食後には必ず実施している。自身でできる方もおられれば、介助を要する方もおられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはトイレでの排泄と考えているが、個々の状態に合わせて、ポータブルトイレやパット類の使用をしている。	家では紙パンツでも入所して失敗がない為布パンツに変更した方がある。紙パンツにパットの利用者が殆どだが、介助が必要な方は少ない。ターミナルの方はオムツ使用だが、個々に合わせた対応としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品を提供したり、水分摂取にも気を使っているが、下剤等の使用もしている状況である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方にかかる介護量などで入浴時間を決めていたり、湯船につかっていただくことができていない現状もあるが、できる限り、本人の希望に沿うようにしている。	やや大きめの家庭浴槽で、ターミナルの方以外は中に入ることができる。週に2回入れるように入浴表を作成している。入浴を拒否される方を優先に声がけするようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣として寝間着への更衣もしているが、具体的な支援としてはあまりできていないように感じている。睡眠導入剤を服用されている方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな薬を服用されているのかわかるようにファイリングはしているが、全職員が把握をしているかと言われれば、そうではないと思われる。ただ、重要と思われる薬についてはある程度副作用などの症状については注意出来ていると思われる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	充実した生活を利用者がおこなっているかと問われると、できていないのではと思われる。毎日単調で楽しいと思える場面は少ないと思われる。ただ、その中でも洗濯物を畳んだり、軽作業はしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの関係で外出支援はほとんど実施できていない。	施設周辺を散歩しているが、外出の機会は少ない。デイの車を借りて数人ずつドライブに出かけるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、自身で金銭管理をされている方はほとんどおられない。紛失や行動障害に発展することを恐れ、自己管理に対して抵抗がある職員も少なくない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がある方もおられるが、ほんの一部である。また、希望がある方にはLINEのビデオ通話を利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所には表示はしている。また、季節感が出るように季節ごとに飾りは変更している。加湿器、エアコンで空調管理はしている。	幹線道路から少し入っている為、車の騒音等も無く静か。自然豊かな地域で、直接景色は見えないが、中庭や窓から木々が眺められる。手作業で季節に合わせた作品を作っており季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には席を決めており、自分の席だと認識されている方もおられ、自然と集まり会話が生まれる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り使い慣れたものを持ってきてもらうように説明はしている。希望があれば、畳の準備もしたり、レイアウトは個々に合うようにしている。	入所時には少しでも慣れてもらうように家で使っていた物の持ち込みを薦めている。タンスや化粧台、テーブル、イス、テレビなどを置いたり、パラソルハンガーで洗濯物を干す方もある。家族写真は多く置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所、危険な物には表示をしていたり、またリスクとなりうるものは除いたり、事故のないように注意はしている。		